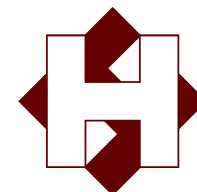


多様な角度から問いを深める 人文・社会科学系ゼミの指導と評価

京都市立堀川高等学校
村井 昂介



Kyoto Municipal
Horikawa
High School

イントロダクション～ 京都市立堀川高等学校

全校生徒数745名（うち普通科240名）

平成11年度より「探究学科群」を配置

- ・人間探究科
- ・自然探究科

SSH（4期連続）および

SGH（H26～）指定校

最高目標

「自立する18歳」の育成



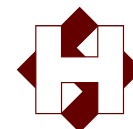
イントロダクション～「探究基礎」

1年生前期～2年生前期の1年半，各期2単位

用意された答えが無い『問い』に対して，正しいと思える『答え』を導き出す営み

特徴1.指導は主に本校で教員が行う
大学研究室等で行うわけではない

特徴2.手法を身につけることが目的
成果を出すことが目的ではない



探究科の場合...

言語・文学，人文社会，国際文化，物理，
化学，生物学，地学，数学，情報科学

1年後期 STEP

探究の「術」を身につける
少人数講座（ゼミ）に分かれ，
分野ごとの課題解決能力を得る

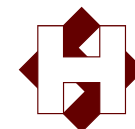


2年前期 JUMP

探究の「道」を知る
周囲から助言・批判を得つつ研究を
進め，論文を作成する

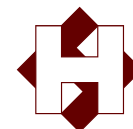
今回の発表内容

- ①人文・社会科学系ゼミの指導にまつわる難点
- ②人文・社会科学系ゼミの評価観点案
- ③堀川高校「探究基礎」人文社会ゼミの事例紹介



京都大学大学院人間・環境学研究科
共生人間学専攻
人間社会論講座
社会行動論分野

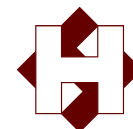
で、何やってんの？



1. 「人文・社会科学系」 に対する イメージ

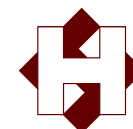
- 「何やってるのかわからない」
- 「本を読んでその背景を解釈する」
「アンケートを取る」

⇒実験に基づき数値化・客観化しやすい「理系」
思索や調査に基づき、主観的「文系」
と、いうイメージ



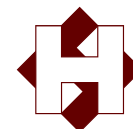
2. 人文・社会科学系 「4つの悩み」

- 結果がモノとして現れるとは限らない
...「分かりにくさ」の一因
- 複雑系である社会に直面する必要がある
...単純なモデル化が不可能な分野もある
- 問題に対するアプローチが一樣ではない
...何の知見が、どれだけ必要か
- 結果の解釈が多様でありうる
...主観的とみなされやすい



3. 高校生が人文・社会科学を 探究する際の「3つの制約」

- 高校生であることによる限界
身分・時間・資金...
- 客観的な基礎知識を得る機会の少なさ
国語・地歴公民・英語...
- 触れる情報自体は豊富, 常識や偏見も持つ
テレビ・本・ネット...



4. 「探究基礎」の目的

- 「用意された答えが無い『問い』に対して、正しいと思える『答え』を導き出す営みです。(中略) **そのために必要な基礎的な姿勢・知識・技術を身に付けることを目的とする**本校独自の授業が探究基礎です。」(『探究魂』2015年度第1号)

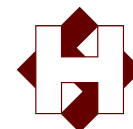
⇒ 専門家を育てることよりも、
普遍的な探究能力を実践的に知ること

5. 「探究基礎」での評価方法

- ゼミの種類を問わず，授業の評価は4観点に基づく

- 興味・関心をもつ力
- 課題を設定する力
- 課題を解決する力
- 他者に表現する力

⇒先述の「4つの悩み」「3つの制約」が影響する



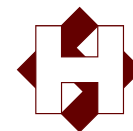
観点	要素	定義	評価の材料
興味関心をもつ力	主体性	探究を楽しみと思える力 自分の意志で取り組む力	・全期間の観察
	実行力	行動を起こす力 目的を設定する力	・全期間の観察
課題を設定する力	課題発見力	目的や課題を明らかにする力	・研究計画書 ・「今後の課題」
	計画力	過程を明確化し準備する力	・取り組みの観察
課題を解決する力	調査・実験	情報収集・分析力	・文献調査, 実験 ・論文の「手法」
	対話力	意見を聞く力 立場の違いを理解する力	・「聞き方」観察 ・質疑
他者に表現する力	発信力	分かりやすく伝える力 事実と意見を区別し伝える力	・論文表現 ・資料作成・発表

JUMP論文 ルーブリック		到達度		
		1	2	3
観 点	探究課題	導入部分に、解決可能かつ一般に価値があり、研究意義が明確な探究課題が示されている。	導入部分に探究課題が明示されているものの研究意義が示されていない。あるいは、解決できそうにない。	導入部分に探究課題が示されているが、問題意識が個人的すぎる、あるいは調査可能な範囲に既に存在している。
	調査・研究方法	探究課題の解決に適した、創意的あるいは、緻密な調査・研究方法が論文中に示されている。	探究課題の解決に適した、調査・研究方法が論文中に示されている。	探究課題の解決に適した、調査・研究方法が論文中に示されていない。
	学問領域に関する知識・理解	用語の使用が正確であるなど、学問領域に関する優れた知識と理解が、論文中に示されている。	学問領域に関する知識と理解が、論文中にある程度示されている。	用語の使用が不正確であるなど、学問領域に関する知識や理解が論文中に示されていない。
	考察・分析	収集した資料などの根拠を基に、探究課題に適した、説得力のある考えが論理的かつ明晰に示されている。	収集した資料などの根拠を基に、探究課題に適した議論をしようとしているが、表面的なものにとどまる。	収集した資料などの根拠から、議論を発展させようとしていない。
	結論	探究課題に呼応しており、かつ課題として扱っている範囲に対して過不足のない結論が示されている。	探究課題に呼応しているものの、言い過ぎていたり、扱い切れない結論が示されている。	探究課題とは無関係な結論が示されている。

6. 「4つの悩み」「3つの制約」は 評価の観点にできるか？

- 人文・社会科学系ゼミで探究する生徒は、
制約の中で「悩み」「制約」と向き合う

⇒「悩み」「制約」を超える過程とその結果は、
生徒の探究を評価する観点にできる？



7. 評価観点の案

観点Ⅰ「複数の観点から情報を検索しているか」

...表面的な情報検索からの深化した知識探究

観点Ⅱ「自分の知見や立場を相対化しているか」

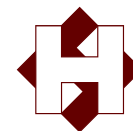
...主観に流されず、複雑系を分析する視座

観点Ⅲ「多様な角度から問いを深めているか」

...知識と視座の応用と発想・考察力

観点Ⅳ「残された課題を認識しているか」

...次に考えるべき内容の認識



8.具体例：人文社会ゼミの生徒A

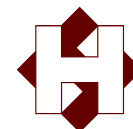
指導開始：2年生前期(JUMP)

1年春休み時点のテーマ

なぜ日本の「かわいい」文化は
海を渡り受容されているのか

参考文献・四方田 犬彦『かわいい』論(2006)

何をするの？



Kyoto Municipal
Horikawa
High School

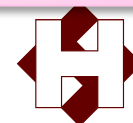
「かわいい」に関して、問いの形式ができない

⇒文献を読む 東浩紀編『日本的想像力の未来』(2010)等
...「かわいい＝未成熟」
という新しいキーワードに出会う

⇒「占い・おまじない」に(突然に)注目し、探究
...「占いが30～40年前まで
男性が担う文化だった」という情報を得る

⇒新たなテーマ

なぜ占いは「女子の文化」と
考えられるようになったのか？



次の課題...占いの何を,どのように調べるのか

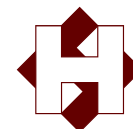
⇒引き続き「女子化」の観点から,
占いの歴史的変遷を文献から調べる

それでもまだ漠然として

いつから「女子」?

⇒対話「本当に女子の文化になったの？」
高校生に対して占いに関するアンケート調査へ

占いは「女子化」したのか？

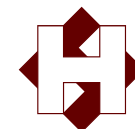


明治以降の占いの表現・担い手・掲載媒体の変遷 ＋ 高校生に対するアンケート調査

結論：占いの受容に男女の差は存在しない

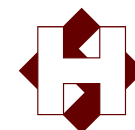
しかし...なぜ30～40年前に変化？なぜ「女子」？

生徒Aの言葉（「探究ノート」より抜粋）
「自分の中にあるものをことばにできて、
少しずつかもしれないけど進み始めた」
「疑問も1つ出すとその近くのこと
“？”ってなって出てくる」



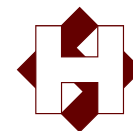
9.生徒Aをどう評価するか

- 古典文献とアンケート調査はできたが、現在の研究に対してのカバーは少ない
- 「かわいい」に対する認識の相対化が出来た
- 占いが指す範囲が漠然としたままだった
- 社会的に文化が構築されたという発想に至り、新たな疑問を持つことが出来た



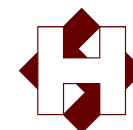
10.指導と評価の課題

- 教員の主観的判断に基づく
...生徒Aの突然の「占い・おまじない」を
どう扱うか
- 教員側の知識・経験に限りがある



11.授業設計上の課題

- 個人探究に至るまでの指導をどう行うか
- 複数生徒を集めた「ゼミ」のデザイン
例：輪読会...全員が“素人”



ご清聴ありがとうございました。